

酒井 抱一(さかい ほういつ)

資 料

短冊『見ぬ橋の 咄もゆかし かきつばた 抱一』

作 者

1761(宝暦11). 7. 1-1829(文政11). 11. 29

江戸(東京都)生まれ。

播磨(兵庫県)姫路藩主酒井忠仰の子。若い頃から俳諧に親しみ、37歳で出家し、根岸に画房雨華庵を結ぶ。大和絵や浮世絵美人画を狩野高信らに学び、尾形光琳風の絵を描き江戸光琳派の画法を築く。

参考文献

『近世俳人ノオト(続)』(星野麦丘人/著 学文社 1988.

5 [県立 911. 302R/30/2(12713566)])

『絵は語る(13)』(平凡社 1994. 1

[県立 721. 08CC/4/13(20647129)])

『江戸の風流人』(加藤郁乎/著 小沢書店 1980. 8

[県立 910. 25M/69(11890019)])

